

2024年9月8日 聖霊降臨後第十六主日礼拝説教  
「御声を聴く耳よ開け」（マルコ7章24～37節）

○マルコ7章31～33節について

救い主イエスが、異邦人の地からガリラヤへ戻ると「人々は耳が聞こえず舌の回らない人を連れて来て」（32節）、彼の癒しを求め、願いに応えたキリストの〈みわざ〉が現された。

\*舌の回らない人：（耳が聞こえないので）うまく話せない人

「耳が聞こえず舌の回らない人」は、自らの願いも悩みも神の子イエスに、はっきりと言い表せなかったが、その人を御許へと導いた人たちの助けをとおして、神の救いを見た。

☞病ある人を御許に連れて行くだけの信仰だったかもしれないが、キリストは、彼らの願いを御心にとめられた。

※きょうも、みことばをとおして、共にキリストのもとへと導かれ、この方への願いが心から獻げられるように。

今日のみことば：マルコ7章34節

「そして、<sup>てん</sup>天を仰いで <sup>あお</sup>深く息をつき、<sup>ふか</sup>その人に向かって、<sup>いき</sup>『エツ <sup>ひと</sup>ファタ』<sup>むか</sup>と言われた。これは、『<sup>い</sup>開け』<sup>ひら</sup>という<sup>いみ</sup>意味である。」

神の子イエスは、この人の舌と耳に触れ、「エツファタ」のみことばをもって、耳と口だけでなく、新たな道も開かれ、彼のうちに御声を聴く耳、神を褒め称える舌を与えられた。

○マルコ7章37節のみことば

「この方のなされたことはすべて、すばらしい。耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてくださる。」

☞みことばをとおして、キリストは、世の言葉で塞がれたわたしたちの耳を御声に聴くものとし、穢れたものしか出ない口を造り変え、憐れみを求める舌を形作られる。

※救い主イエスが、あなたに語る「開け」との御声によりこの方に依り頼む〈まことの道〉へと導かれるように。